

安威川ダム周辺地域の利活用による 地域活性に向けた取り組みについて

岡本 麻里¹・小野 一義²

¹大阪府 都市整備部 河川室 河川環境課 (〒540-8570 大阪府大阪市中央区大手前2丁目)

²大阪府 都市整備部 安威川ダム建設事務所 (〒567-0813 大阪府茨木市大住町8番11号(4階))

現在建設中の安威川ダムにおいては、ダム完成後に広大なダム湖ができ、水と緑に囲まれた貴重な水辺空間が地域の活性化に繋がることが期待されている。そのなかで、ダム湖周辺の地域においてどういった利活用をしていくか検討を重ね、将来図を明確にしていくための検討を行っている。

キーワード ダム, 周辺整備, 地域活性化

1, はじめに

安威川ダムは大阪府の茨木市を流れる淀川水系安威川に建設中のダムです。昭和42年の北摂豪雨災害を契機に安威川流域の抜本的な治水対策として計画され、現在、平成33年度末の完成に向けて工事を進めています。(図1 ダム完成予想図)

ダム建設現場周辺の地域には多くの貴重な動植物が確認されており、美しい自然ときれいな水などに恵まれた「見山の郷」(図2)と呼ばれる地域では、地元でとれる安心・安全で新鮮な野菜やお米を販売しています。また、ダム周辺の地域には歴史的に価値のある見所も残されています。例えば、茨木市千提寺には禁教令下でも信仰を止めなかった「隠れキリシタン」の熱心な活動の痕跡が見受けられます。こういった文化を後世に伝えるべく、キリシタン遺

物史料館(図3)が設立されています。一方で、(図4)の安威川ダム位置図に示す通り、ダムの下流域には開発の進んだ市街地が広がっており、JR東海道本線や阪急京都線など主となる交通網が走っています。安威川ダムは全国的にもまれな都市近郊型のダムとなっています。

茨木市の市街地から比較的短時間で訪れることができ、加えて昨年12月に新名神高速道路が高槻ICから茨木千提寺ICを含んだ神戸ICまでの区間において供用開始するなど、アクセスが向上しました。このような立地条件を活かし、ダム周辺を拠点とした「茨木市北部地域におけるハブ拠点」としてのネットワーク機能の形成や北部地域の魅力向上や活性化に向けて、ダム建設中の段階から取り組んでいる内容について紹介します。

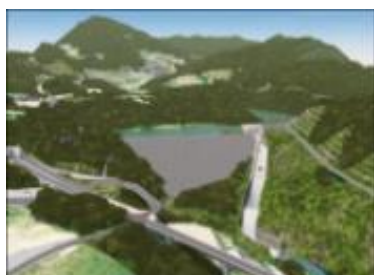


図1 安威川ダム完成予想図



図2 見山の郷



図3 キリシタン遺物史料館

2, 安威川ダム周辺整備基本方針

(1) 目的

安威川ダム周辺整備基本方針は、ダム湖を中心とした水と緑のオープンスペースを活用した周辺整備のあり方と、官民連携を含めた整備のあり方を示すものとして、2009年8月に、大阪府と茨木市が有識者や府民の意見を取り入れ、安威川ダム周辺の自然・社会条件



図4 安威川ダム位置図

特性などを踏まえて策定したものです。安威川ダム完成後における場所ごとの空間特性や想定される来訪者行動パターンなどを考慮して、「A~I」の9つにゾーン分けをしました。安威川ダム周辺地域のゾーン分けを図5に示します。

(2) 安威川ダム周辺整備の基本理念

周辺整備を行うにあたり、安威川ダム周辺整備基本方針に基づき、『未来につなぐ美しい自然、創造と交流の湖畔の里』を基本理念として、官民協働で具

体的な整備内容の検討を行っています。安威川ダム周辺において、自然と人の営みの中で形成されてきた美しい景観や歴史・



文化とダム湖 図6 安威川ダム周辺整備の基本理念により新たに生まれる地域景観は府民の財産です。これらの財産を活かしながら、府民のレクリエーション需要に応えるとともに、水源地域の振興・地域間交流の地域間交流の活性化につなげる必要があります。このことから、図6に示すように、北摂の自然と人の織りなす美・自然と人の新たな調和を創りだすため、「自然環境」「レクリエーション」「地域振興と地域間交流」の3つの観点を融合・調和させて、人と自然の新たな創造と交流を創出します。

3, ワークショップ

平成25年度からは地元や公募した府民などを対象としたワークショップを実施し、基本方針で示されたゾーンごとに将来像のイメージと実現していくためのアイデアをいただきました。図5のゾーン分けに示す数字と表1に示す数字でゾーンごとの空間特性を示します。また、そのなかで、各ゾーンに対して出された様々な利活用のアイデアに基づいて作成したパースを2つ紹介します。

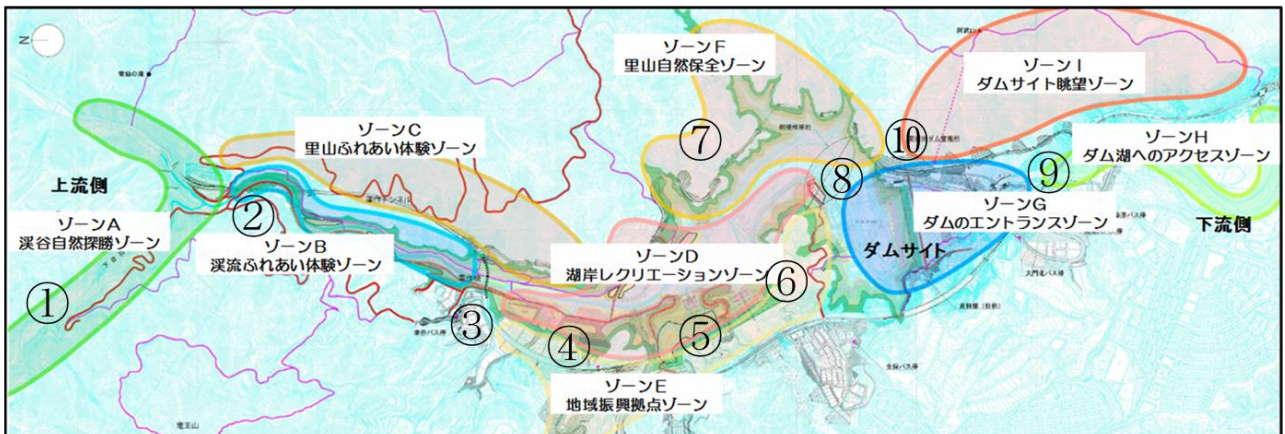


図5 安威川ダム周辺地域のゾーン分け

表1 ゾーンごとの利活用方法

| 箇所 | 名称(仮) | 活用アイデア |
|----|----------------------|----------------------------|
| ① | みどりに包まれた権内せせらぎ広場 | 自然を満喫できる広場空間 |
| ② | 自然を楽しむ学びの川原 | 豊かな水と緑に出会うことができる親水空間 |
| ③ | 車作橋を望むアウトドアスポーツフィールド | 水辺のプレイグラウンド |
| ④ | 水辺のオートキャンプサイト | 手軽に自然を満喫することができるオートキャンプサイト |
| ⑤ | 湖面を望むレクリエーションパーク | 多様な活動が可能なレクリエーションパーク |
| ⑥ | ビジターセンター前のコモンスペース | 活動を支えるにぎわいのスペース |
| ⑦ | 湖面とダムを望むつり橋 | ダムと湖面の風景を水上から楽しめる湖面橋 |
| ⑧ | ダム湖エントリーサイト | 水辺のエントリー空間 |
| ⑨ | ダムを背景とした小川公園 | かつてあった川の流れを再現したせせらぎ公園 |
| ⑩ | 自然遊歩道の眺望スポット | 遊歩道沿いの休憩スポット |



図7 水辺のオートキャンプサイト(④)



図8 ダム湖エントリーサイト(⑧)

図7に示す水辺のオートキャンプサイトイメージのように、市街地からのアクセス性が良い立地を生かした、キャンプ・バーベキュー・飯ごう炊さんなど、野外活動を中心とした広場を整備し、多くの人が集まれるような、手軽に自然を満喫することができるアイデアが出されました。また、ダム湖を活用したイベントやダム湖近郊でしか味わえないダム周遊コースも案として出ています。

図8に示すダム湖エントリーサイトのイメージでは、アクセス路と水辺の空間を整備し、様々な湖面利用の起点となる水辺のエントリー空間を創造するなどのアイデアが出されました。ここでもダム湖を活かした観光ができるようなレジャー拠点をつくり、野外活動といったアイデアが出されました。また、湖面でカヤックやボートができるような施設があればいいというアイデアも出されました。

4. 民間活力を取り入れた周辺整備への取り組み

安威川ダムの周辺整備では民間活力を導入した整備を進める方針で、「安威川ダム周辺整備基本方針」を基に、周辺整備事業に対して民間事業者に様々なアイデアを提案してもらうことを期待しています。

そのため、事業区域やダム完成後の地形・河川法など制約条件・ワークショップなどのアイデアを示しながら、事業者へのヒアリングを平成28年度より行っており、アウトドア系・飲食・物販・アトラクション系など様々な分野の事業者に関心を持っていただいているところです。地元茨木市は今後、ヒアリング結果等を踏まえ、「安威川ダム周辺整備基本構想」をとりまとめる予定です。

また、大阪府は、平成30年1月25日の「大阪府

河川水辺の賑わいづくり審議会」において、安威川ダムの周辺整備の取り組みについて報告を行いました。

委員からは

- ・大阪市内の河川とは違い、安威川ダムの周辺ではボート・バンジージャンプ等の利用が考えられる。社会実験など事業者が参加しやすいようにしていくべき。
- ・安全面、治水について小中学生が楽しみながら学べるような仕掛けづくりを。
- ・地元住民を巻き込んだ計画を作っていくべき。などのご意見をいただきました。

今後、周辺整備の検討状況に応じ、「大阪府河川水辺の賑わいづくり審議会」での審議を進め、都市・地域再生等利用区域の指定などの手続きを行っていきます。

5, 将来の周辺整備

現在、安威川ダムは平成 33 年度末のダム堤体完成に向けて工事を進めています。ダム完成後には、治水効果を発揮するだけでなく、美しいダム湖と周辺景観等のフィールドを活用した「北部地域におけるハブ拠点」を創造し、民間事業者によるさまざまな提案により持続可能な施設整備の実現、及び地域振興にも寄与する拠点とし、大阪府民のみならず、全国の人が来たいと思えるような地域づくりを茨木市と連携して進めていきます。